

高校生と北大院生 町内回って調査



町内の交差点で現行看板のデザインや設置場所を細かく見ていく、津別高生とハルクのメンバー

津別の道路看板見やすく

【津別】道路沿いにある行き先表示や施設名などを記した町内の看板類について、もっと見やすくできないかと、津別高生と北大公共政策大学の学生団体HALCC（ハルク）メンバーが、新しい看板のデザインや掲示位置を考える「デザインワークショップ」を行った。今冬をめどに考え方をまとめ、町への政策提言を目指す。

津別高とハルクが続け、交差点の道路案内の看板について考えるグループに分かれ、26日は自校を通じ「町内の看板を2時間近くかけて調査。27日には、出された意見をもとに具体的な改善案を240号と町上里、北見方面などへ向かう道路が交わる町中心部の五差路周辺などを歩き回り、参加者たちが意見交換。各

デザインや設置場所 今冬めどに町に提言

施設への案内表示や道路の行き先表示はあるものの「小さくて見づらい」「行き先の項目が多すぎて運転中に把握できなさそう」「看板の位置が信号の停止位置よりかなり手前であって見にくいのは」など、気づいた点を出し合っていた。

同校2年の小田桐雛彩さん(17)は「普段見ている光景だけど、見やすいのか見にくいのかを意識することはなかった。今回巡回してみても、客観的に見ることでできた」と手応えを語った。

同行したハルク代表の亀井宏之介さん(26)は「同大学院2年」は「看板をどのようにデザインするか、どこに設置するか、この2点が重要だと思っている。道路を往来する人たちの視点に立った看板作りを考えたい」と話した。

(青山秀行)